

畦畔に稀ではあるがみられる。

(55) 野 鳩

發芽初期に子葉を喰害するもので、開拓地帯にその被害がある。

(56) 山 鬼

莖葉を喰害するが、被害は山間部に限られてい

る。

(57) 野 猪

收穫期頃山麓の畠地に夜間出没して大害を与える。出没地は極限されている。

(長野農試下伊那分場 昭27)

## ルビーロウムシ *Ceroplas tesrubens* MASKELL

### の発生状況とルビーアカヤドリマバチ *Anicetus ceroplastis* の放飼について

友 永 富・森 川 司 郎

1) ルビーロウムシが、福井県で最初に発見されたのは、昭和6年12月敦賀郡東浦村阿曾字岩屋の柑橘園においてであった。ついで昭和7年9月には遠敷郡内外海村に、昭和8年6月には丹生郡國見村に、昭和10年10月には福井市に、昭和11年8月には坂井郡芦原町に同じく発生を確認された。

しかし著しく分布が拡大し被害が顕著になってきたのは昭和22~23年前後からで、昭和26年の調査によれば発生地域は嶺南一円と嶺北では越前岬附近の丹生郡城崎村、四ヶ浦町、及び福井市にまたがり、カキの被害見積面積290.反、柑橘類の被害見積面積30反に上っている。

2) 本日までの調査により判明した本県の寄生植物は10科17種でお今後の調査により増加すると思われるが、寄主植物の寄生程度を吟味すると、カキノキ科のうちでも次郎、百鬼、御寺、富有等の種類に寄生が多く、また他の科においても同じ科に属しながら寄生程度に大きな差異が認められるがこれは如何なる因子が関与するかは明らかになし得ない。

3) 昨春九州大学安松博士の御好意によつてルビーアカヤドリコバチの寄生しているルビー標本の寄贈を受け本虫による生物的防除を試験的に行つた。まず該標本をガラス管170本に分けて入れ軽く綿栓して暖かい部屋におき毎日羽化状況を調査した。その結果本県における実験室でのルビーアカヤドリコバチ発生始めは6月中旬、最盛期は6月中旬後半で終期は6月下旬であつた。そして発生期の前半に雄の発生多く、後半になるにつれて雌の発生を多く認める傾向があつた。

これは安松博士のいわれる第1回羽化期の5月下旬~7月上旬より相当遅いことが注目される。

4) 寄生蜂の放飼は羽化調査の終つたものを他のガラス管に移し、10倍に稀釀した蜂蜜を脱脂綿に浸して供飼し、2日間飼育後三方郡耳村上野、前田政吉氏カキ柑橘混合園に放飼した。放飼期間は昭和25年6月14日から28日まで雌159頭雄86頭計245頭である。

この寄生蜂放飼の成否はなお今後に俟つもの

多いが初年度における小調査の結果はルビーロ  
ウムシの着生率半減し肉眼的にも著しく激減し

たことが窺われた。

(福井農試 昭27)

## コスカシバ *Conopia hector* BUTLER の 羽化期について

知久武彦・宮下忠博・金田金佻

桃の大害虫であるコスカシバの週年経過は、從來年1回の発生で幼虫態で越年し、翌春5月中旬に化蛹、6月上、中旬に成虫が出現して産卵するものとされていた。ところが本年度筆者等の調査した結果斯様な期待を裏切つて、違つた成績を得た。以下簡単な調査ではあるが参考までに報告する。

### 1) 供試園

長野県下伊那郡市田村農業試験場下伊那分場内桃園樹令13年生、供試園に対する本年度の薬剤撒布実施曆を次に挙げる。

年月日	撒布薬剤の種類
昭和26年 12. 4	機械油乳剤 5%液
〃 27 4. 4	石灰硫黃合剤ボーメ 5度液
〃 4. 16	6斗式過石灰ボルドー液
〃 5. 7	DDT水和剤 0.04%液
〃 6. 11	〃
〃 6. 20	TEPP剤 2500倍液
〃 7. 15	DDT水和剤 0.04%液

### 2) 調査方法

樹幹の被害部にネットを張り羽化する成虫を捕獲すると同時に、スカシバ類の特徴である羽化後

第1圖 コスカシバ蛹殼採取数(5日間換算)

